

校訓	盡 己	令和2年度学校通信 「松崎中だより」 第3号	発行日	令和2年6月2日
教育目標	すべてのことに全力で取り組む生徒の育成 「一生懸命勉強する」「優しい心を持つ」「感動する」生徒の育成		発行者	伊丹市立松崎中学校 校長 佐藤 幸宏

学校が再開しました

5月、昆陽南公園の桜の木は、濃緑色の葉が生い茂り、園内外でランニングやトレーニングをする方々を温かく見守ってきました。



新型コロナウイルス感染症対策として緊急事態宣言が出されてから、私たちの生活は、朝の検温が日課となり、マスクの着用も当たり前となりました。「自粛」という言葉の意味も、電車やバスに乗る人の数や、街中を往来する人の会話を控える姿から感じとれるようになりました。テレビからは、まず新型コロナウイルス関連のニュースが目飛び込み、その他の番組もリモートによる紹介から始まる（最近リモートによる番組も行われている）など、それがいつしか当たり前の風景になりました。新しい生活様式とよく言われますが、こうした中にも表れてきています。

文部科学省から出された「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～学校の新しい生活様式～」には、「本感染症については、いまだ不明な点が多く、有効性が確認された特異的なワクチンは存在しません。国内外の感染状況を見据えると、私たちは、長期間、この新たな感染症とともに社会で生きていかなければなりません。」「新型コロナウイルス感染症とともに生きていく社会を作るためには、感染リスクはゼロにならないということを受け入れつつ、感染レベルを可能な限り低減させながら学校教育活動を継続していくことが重要です。」と記されています。

4月7日の始業式、9日の入学式以降、臨時休業が続き、教育相談等で個別に学校に訪れる機会はあったものの、学級として集まることができたのは、先日の学年別登校日でした。この日ある先生が、「生徒たちの顔を見ると、やっと学校で仕事をしているという実感が湧いてきて、非常にうれしいです。」と言われたのを聞いて、私自身も、ようやく学校が始まることを実感しました。静まりかえる教室や廊下を歩

き、誰も使わないグラウンドの固まった土を踏みしめた休業期間でした。分散登校とはいえ、やっと全学年が揃い、学校が呼吸をし出したことを大変嬉しく思います。マスクで表情までは読み取れないまでも、直接目が合うということが、どれだけお互いの安心感を生むこととなるのか、これも新しい生活様式からの学びです。

しかし、第2波が来て、再び休業となることも想定しておかなければなりません。

これまで経験したことのない、初めてのことばかりであるのは、私たちだけでなく、全世界共通に言えることなのです。一番大切なことは、様々な情報を得る中で、落ち着いて前を向き、恐れる時は正しく恐れ、行動することではないでしょうか。

終身譲路、不枉百歩（終身路を譲るも百歩を枉（ま）げず）

この故事成語は新唐書によるものです。「長い人生の間、他者に道を譲り続けても、道を譲るために曲げた距離は、百歩にもならない。」という謙譲の大切さについて述べられた言葉です。人間関係が円満に進み、自然と周囲から認められるようになるという教えだそうです。例えば、道が混んでいてなかなか先に進めないとき、電車やバスが時間通りに来ず、いらしたとき、「われ先に」と無理矢理追い越したり、押しのけてでも前へ進もうとしたりすることがあります。焦る気持ちがつい先に立つのですが、そんなときに「お先にどうぞ」と譲ることができたらいいですね。でも実は、そうした行動がとれる人は、普段から時間に余裕を持って行動している人、また日頃から焦らずじっくり考える人なのではないでしょうか。そうした生活を送る中で生まれる「心の余裕・ゆとり」は、自分や他人を守ることにも繋がっていくのです。



コロナウイルス感染症予防に向けて！

- ・毎朝の検温、記録により風邪症状の有無等の確認
- ・石けんを使ったこまめな手洗いの徹底
- ・咳エチケットの徹底（マスクの着用）
- ・健康管理（十分な睡眠、適度な運動、バランスのとれた食事）
- ・不要不急の外出を控える
- ・三密（密閉、密集、密接）を避ける ゼロ密を目指す

